

日本を代表する民間研究組織[HEAT20]と史幸工務店の取り組み！

## HYBRID・ECO・HEART-Q

2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会



史幸工務店は **HEAT 20** 熊本県・賛助会員です。

Investigation committee of Hyper Enhanced insulation and Advanced Technique for 2020 houses



**Q** [HEAT20]とは、どんな組織ですか？

**A** 民間が組織する高性能住宅の研究開発組織です。

◎HEAT20 Investigation committee of Hyper Enhanced insulation and Advanced Technique for 2020 houses

欧米などでは、民間の関係団体が中心となり、自らの技術開発の目標とする、国民の関心を高めるため、国の制度・基準とは一線を画して、「望ましい姿」を民間主導で提案する取り組みが盛んに行われています。

そして、それらの先導的な活動が足元の技術力を引き上げ、新たな技術革新を生み出しています。日本でもこれらと同じ取り組みを……という想いから、2009年、有識者・民間から構成される「2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会(HEAT20)」がスタートいたしました。

HEAT20委員会では、住宅生産者、住まい手に対して、単に省エネ対策のツールとしてではなく、室内環境性能の向上におおきな効果をもたらす「外皮性能(断熱・遮熱・通風・採光など)の向上」の重要性和必要性を理解していただくために、室温という最もわかりやすい指標を用いて、エネルギー性能やコストとのバランスのなかで目指すべき水準を示していくべきと考えています。

◎HEAT20が目指す水準と室内温度環境。

下図は、HEAT20が目指す外皮性能グレードG1とG2の家がどのような室内温度環境になるのかを示しています。併せて、省エネルギー性能についても現行の省エネ基準の家に対する比較をしています。室内温度環境は、冬期間において家の中「最も体感温度が低い時の温度」と「各部屋の体感温度が15℃以下となる時間割合」を表しています。

表・1

地域区分	1・2地域		3～7地域	
	冬の室内温度と省エネ	省エネルギー性能	冬の室内温度と省エネ	省エネルギー性能
最低の体感温度 住宅性能レベル	最低の体感温度 15℃未満となる割合	暖房負荷削減率	最低の体感温度 15℃未満となる割合	暖房負荷削減率
HEAT20 G2 の家	おおむね15℃ を下回らない 2%程度	省エネ基準の家より 約30%削減	おおむね13℃ を下回らない ※3地域は8% 15%程度	省エネ基準の家より 約50%削減 ※3地域は40%削減
HEAT20 G1 の家	おおむね13℃ を下回らない 3%程度	省エネ基準の家より 約20%削減	おおむね10℃ を下回らない ※3地域は15% 20%程度	省エネ基準の家より 約30%削減
省エネ基準 H28 の家	おおむね10℃ を下回らない 4%程度	省エネ基準の家	おおむね8℃ を下回らない ※3地域は25% 30%程度	省エネ基準の家

※暖房負荷とは、対象となる空間を暖房するために必要な熱量とのことです。 ※1・2地域は居室連続暖房、3～7地域は部分間歇暖房の計算に基づいています。